

# 大田区自立支援協議会 第8回相談支援部会要旨

文責：大窪委員、事務局一部修正

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第8回相談支援部会				
(2) 開催日時	令和4年9月7日(水) 9:30~12:00				
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター5階 多目的室				
(4) 出席した委員、事務局等	委員 <span style="float: right;">&lt;敬称略&gt;</span>				
	神作 彩子	古怒田 幸子	山本 利寛	清水 悠子	石川 洋平
	井町 恵	上原 優希	大窪 恒	大類 信裕	草野 牧子
	茂野 俊哉	清野 弘子	筒井 寛孝	永井 良宗	野崎 陽一郎
	オブザーバー：徳留 敦子、後藤 憲治、高柳 茂泰、金子 江理子、 廣井 千晴				
	事務局：須藤 成政、柳田 実希、酒井 史穂、阿部 朝奈				
欠席者：井岡 幸子、小嶋 愛斗、渡邊 伸幸、村田 亮、小川 幹夫、 七尾 尚之、馬場 聡子、渡部 尚					
(5) 内容・要旨	<p><b>1 連絡確認事項</b></p> <p>(1) 司会・書記の確認 司会は神作部会長と須藤係長。書記は大窪委員が行う。</p> <p>(2) 編集委員の確認 清水委員が交流会参加を含め担当する。</p> <p>(3) 前回議事録及び意見出しカードの確認 意見だしカードの意見より、前回の検討課題である在宅医療相談窓口の連携体制について、感想が多かった。おおた医療 BOOK に精神科の情報も掲載されていることを確認した。</p> <p>(4) 連絡事項・情報提供</p> <p>1) 自立支援協議会全体交流会のご案内 10月19日(水)に自立支援協議会全体交流会を開催する。相談支援部会、地域生活部会、防災・あんしん部会の委員同士の交流を図る会とする。出欠に関わらず10月10日(月)までに出席票の提出をお願いする。</p> <p><b>2 本日の検討課題</b></p> <p>(1) 地域における医療と障がい福祉の今後の連携に向けて</p> <p>1) 「大田区在宅医療相談窓口の連携体制」の発表から 作業部会にて各グループから出た意見を整理し、以下着目した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報共有と資源周知の方法について(医療連携ノート等も含む)</li> <li>● 医師会や連合体との連携方法について(医師の参入を含む)</li> </ul> <p>2) 「医療と障害福祉の連携に関するアンケート」結果から 大田区で活動している相談支援専門員にアンケートを行い、53名から回答があった。アンケート結果について作業部会で整理し、以下の点に着目した。</p>				

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相談支援専門員を医療職の方に認識してもらうにはどうすれば良いか。</li> <li>● 相談支援専門員と医療職とのやり取りを上手く行うにはどうすれば良いか。</li> </ul> <p>3) グループワーク、全体共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報共有と資源周知の方法について（医療連携ノート等も含む） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人のことを医療職に伝えるためのツールがあると良い。</li> <li>・ 情報が ICT ツールで共有化されることで、必要な情報にアクセスがしやすくなると良い。例として国民健康保険団体連合会の請求と各種情報が紐づくサービス実施状況や日々の変化を把握しやすくなる。</li> <li>・ 訪問看護師やヘルパーは事務所に戻ってから記録を書くことが多く、電話もつながりにくい時がある。時間短縮のためにも ICT を活用できると良い。</li> <li>・ 市区町村によって書式が違う物が多いため、全体的な共有ツール（書式、ノート等）があると良い。</li> <li>・ 医療連携ノート等を使い医療職、福祉職が情報共有できる機会を増やす。</li> <li>・ 医療連携ノートが更新される際に、障がい福祉に必要な項目の追加について提案できれば良い。</li> </ul> </li> <li>● 医師会や連合体との連携方法について（医師の参入含む） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師会とつながっている介護分野の連絡会と連携する事でつながりを増やす。</li> <li>・ 新たな会議体や連合体をつくるのではなく、現在あるものに参加させてもらう。</li> <li>・ 家族会と医師会等医療職の連合体との関わりが増える事で、連携がしやすくなる可能性がある。</li> </ul> </li> <li>● 相談支援専門員を医療職の方に認識してもらうにはどうすれば良いか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立支援協議会、相談支援部会、連絡会おた等と医療職の連絡会等のつながりを増やすことで相談支援専門員を知り、理解してもらえる機会が増える。</li> <li>・ まず知ってもらう事が大切。</li> <li>・ 相談支援専門員を知ってもらう事で、ケアマネジャーと同等の事を求められるのは権限や報酬面で厳しい。バランスをどのようにとるのが重要。</li> <li>・ 個々の多様性に合わせて対応するため、時間も手間も必要となり相談支援専門員の負担があることも理解する必要がある。</li> </ul> </li> </ul>
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相談支援専門員と医療職とのやり取りを上手く行うには、どうすれば良いか。</li> <li>● 服薬調整のため本人の生活状況を伝える場合など、医療職にメリットがある場合は話がしやすい。相談支援専門員が関わるメリットを説明していくことが大切。</li> <li>● 医師とは退院前カンファレンスで会うことが多い。</li> <li>● 事前連絡をしてから受診同行する。または、本人に連絡事項を書いた書面を持って受診してもらう。</li> <li>● 介護分野だと医療職側に加算があり、ケアマネジャーが一般に認知されているため情報連携がしやすい。</li> <li>● 訪問看護は支援チームに入ってもらいやすいが、医師の指示が必要となる為、医師との連携が大切。</li> <li>● アンケートでは、約75%の相談支援専門員が医療職と何かしらのやりとりを行っており、現状の権限や報酬面で考えると連携はできていると思われる。</li> </ul> <p>4) 司会より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 相談支援専門員を知ってもらう方法として、作業部会では医療職向けに相談支援専門員について1枚にまとめたチラシを作ってみてはどうかという意見が出た。そのチラシをサービス等利用計画と一緒に医療職に渡すのも一つの方法ではないか。</li> </ul> <p>(2) ワーキンググループ (以下、WG) について</p> <p>【テーマ】重層的な相談支援体制における第2層の充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● WGを立ち上げることについて、参加者より承認を得た。</li> <li>● 参加希望者を募り可能なら少人数で集中的に議論を深める。</li> <li>● 今後、作業部会として予定している開催日(場所)で行う。</li> </ul> <p><b>3 今回決定事項及び次回検討事項の確認</b></p> <p>今回は、地域における医療と障がい福祉の今後の連携に向けて検討した。次回は、訪問看護連絡会の方から医療と障がい福祉の連携についてお話しいただく。</p> <p>今後作業部会は開催せず、その時間をWGの活動に充てることとする。</p> <p>次回日程：令和4年10月12日(水) 9時30分～12時00分 障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室</p>
--	---